

ツシマヤマネコ飼育員物語

動物園から野生復帰をめざして



キム・ファン/著

くもん出版[489]

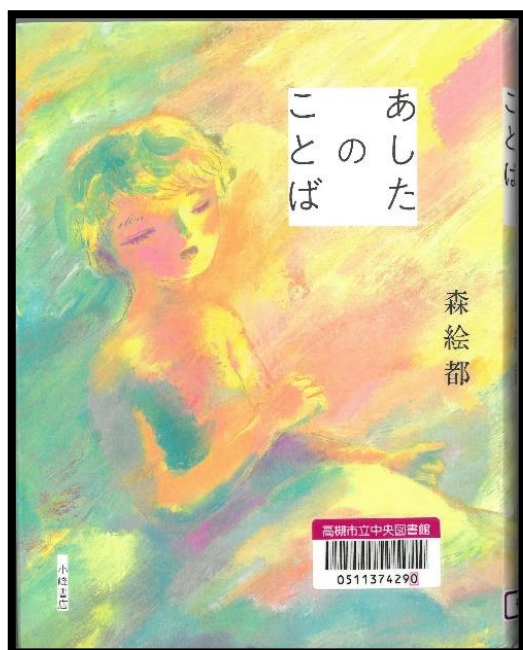
特集: 学校

長崎県の対馬に生息するツシマヤマネコは、絶滅が心配されています。全国のいくつかの動物園では、ツシマヤマネコをふやし、対馬の野生にかえす取り組みが進められています。

その拠点のひとつが京都市動物園です。警戒心の強いヤマネコは非公開の繁殖棟で飼育員にトレーニングや健康管理をされながら、繁殖のタイミングを待っています。

将来、動物園で生まれたヤマネコが、対馬の自然の中で生きている姿が見られるように願います。

あしたのことば



森 絵都/作

小峰書店[913モリ]

友達に言われた、たった二文字の酷い言葉に傷ついた美里が、胸の内を打ち明ける『富田さんへのメール』。言えなかった、たくさんの心の声が壮大な宇宙空間に漂う『遠いまたたき』。親が離婚し、気力をなくした転入生が、友達からかけられた何気ないひと言で、未来へと向かうエネルギーを得る表題作『あしたのことば』など。

「言葉」をめぐる短編集で、6年国語教科書に掲載の『帰り道』も収録されています。9人のイラストレーターが、絶妙な挿絵で物語の魅力を引き立てます。

色どろぼうをさがして



エヴァ・ジョゼフコヴィッチ/作 おおまぐ みちこ/訳
ポプラ社〔933ジョ〕

12歳の女の子イジーのママは事故で昏睡状態になり入院している。そのうえ、親友のルーから避けられるようになり、ふさぎこんでいるイジーの夢に影のような男が現れる。その日からママが描いた部屋の壁画から、色が1色ずつ消えていった。色どろぼうの正体は一体何なのか。

車椅子の少年トビーと白鳥のひな・トンガリとの出会いが助けとなり、イジーの固くなった心と、色どろぼうの謎がしだいにとけていく。

色の印象が鮮やかなミステリー仕立ての物語。

その魔球に、まだ名はない



エレン・クレイジス/作 橋本 恵/訳
あすなろ書房〔933クレ〕

1950年代後半のアメリカ。野球が大好きなケイティ・ゴードンは、凄腕のピッチャー。女の子だからってバカにしていた男の子たちも、ケイティの投げるボールを見てビックリ。すぐに野球仲間になった。

ある日、リトルリーグにスカウトされたケイティは、選抜試験に見事合格。でも、女の子はリトルリーグに入団できないという規則があると知り、がっかり。あきらめきれず、図書館で調べてみると、なんと女子プロ野球選手がいることが判明した。

好きなことを続けるために奮闘するケイティを応援したくなる本です。